



正規直交基底と表現行列

\mathbb{R}^n から \mathbb{R}^m への線形写像は、ある $m \times n$ 型行列 A によって表現される

ref: 線形代数セミナー

p1~3

これを定める基本的な方法は、

1. 定義域 \mathbb{R}^n に一つの正規直交基底 (互いに直交する単位ベクトル) $\{\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_n\}$ を定める
2. それぞれが写像されるべき m 次元ベクトル (像) $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ を指定する

という手順であり、このとき、行列 A は

$$A = \begin{pmatrix} \mathbf{a}_1 \\ \vdots \\ \mathbf{a}_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 & \cdots & \mathbf{u}_n \end{pmatrix} = \mathbf{a}_1 \mathbf{u}_1^\top + \cdots + \mathbf{a}_n \mathbf{u}_n^\top$$

と書くことができる (T は転置を表す)

実際、両辺に \mathbf{u}_i をかけると、

$$A\mathbf{u}_i = \sum_{j=1}^n \mathbf{a}_j \mathbf{u}_j^\top \mathbf{u}_i = \sum_{j=1}^n \mathbf{a}_j \delta_{ij} = \mathbf{a}_i$$

より、

$$A\mathbf{u}_i = \mathbf{a}_i \quad (i = 1, \dots, n)$$

が成り立つことがわかる



特に、 \mathbb{R}^n の正規直交基底として標準基底 $\{\mathbf{e}_1, \dots, \mathbf{e}_n\}$ を選ぶと、行列

A は次のように表せる

$$\begin{aligned} A &= \sum_{i=1}^n \mathbf{a}_i \mathbf{e}_i^\top \\ &= \begin{pmatrix} \mathbf{a}_{11} \\ \vdots \\ \mathbf{a}_{m1} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 0 \end{pmatrix} + \cdots + \begin{pmatrix} \mathbf{a}_{1n} \\ \vdots \\ \mathbf{a}_{mn} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & \cdots & 1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \mathbf{a}_{11} & \cdots & \mathbf{a}_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \mathbf{a}_{m1} & \cdots & \mathbf{a}_{mn} \end{pmatrix} \end{aligned}$$

すなわち、表現行列 A は、

像 $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ を列として順に並べた行列 $\begin{pmatrix} \mathbf{a}_1 & \cdots & \mathbf{a}_n \end{pmatrix}$

となる